

第1学年 生活科学学習指導案

日 時 令和6年9月25日 5校時
13:15～14:00

対 象 第1学年2組 20名

指導者

1 単元名 「あきとなかよし」(18時間扱い)

2 単元目標

- 秋の自然と関わる活動を通して、秋の特徴やそのほかの季節との違いや秋夏から秋への変化が分かったり、秋の自然物を利用した遊びの面白さに気付いたりすることができる。 【知識及び技能】
- 秋の自然と関わる活動を通して、秋の特徴やそのほかの季節との違いを見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 秋の自然と関わる活動を通して、季節の変化に関心をもち、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようしたり、みんなと楽しみながら遊びを作り出そうしたりしている。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①秋の自然と関わる活動を通して、秋の自然の様子や夏から秋への変化が分かっている。 ②秋の自然と関わる活動を通して、秋の自然物を利用した遊びの面白さに気付いたりしている。	①秋の自然と関わる活動を通して、秋の特徴やそのほかの季節との違いを見付けている。 ②秋の自然と関わる活動を通して、自然物の特徴を生かした遊びや遊びに使う物を工夫して作っている。	①問題の発見や解決に向かって、自分の持ち味を生かして挑戦し、主体的に取り組もうとしている。 ②秋の自然と関わる活動を通して、季節の変化に関心をもち、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとしている。 ③秋の自然と関わる活動を通して、みんなと楽しみながら遊びを作り出そうとしている。

4 単元について

(1) 指導内容

児童は、これまで学校や家庭での生活経験の中で公園などへ出向き、様々な活動を通して、自然に興味・関心を抱いている。本来は秋になると、校庭や遊び場から虫の声が聞こえたり、秋らしい草花や雲が見られたりするようになる。しかし、本校の周りには豊かな自然環境が整っておらず、季節の移り変わりを十分に感じることはできない。その上、最近の児童の遊びは、室内遊びや遊具、ボールを使った遊びが多く、自然物を使って遊んだり、それらを活用しておもちゃを作ったりする機会が減っている。

本単元では、秋の自然の中へ児童を誘い、思う存分自然に浸らせ、友達と工夫しながら遊ぶ楽しさを味わわせたい。そこで、秋のおもちゃランドを開いて、友達とともに話し合ったり、他学年や地域の方と交流したりする活動を設定した。この活動を通して、友達と協力することの大切さに気付かせるとともに、物事を主体的に探究したり、課題解決に対して意欲的に取り組んだり、1年生の児童が

本来もっている持ち味を生かすことができると考えた。

公園など学校外へ出かける際には、秋の動植物を観察したり、草花、色づいた木の実や落ち葉、つるなどを使ってその場で簡単な遊びをしたりするなど、現地での活動を大切にしたい。なお、公共の場では、幼児や高齢者などほかの利用者にも配慮できるよう指導する。

(2) 創造的な資質・能力の素地を重点的に育成する単元として設定した理由

地域や家庭の人々との交流を通して、自ら考え、判断し、行動できる力を高めてほしいという保護者の願いや、笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育ててほしいという地域社会の要請を踏まえ、本校では、育成を目指す創造的な資質・能力を「未来を切り拓く力」とし、児童が持ち味を生かして挑戦できる学習として本単元を設定した。

5 児童の実態

1学期に学習した生活科「なつとなかよし」では、「作って、試して、考えて、改良する」という活動を何度も繰り返していくことで、「もっと勢いよく水を出したい。」「もっと遠くに水を飛ばしたい。」「〇〇みたいな材料が欲しい。」などという児童の願いが膨らみ、友達と協力しながら、粘り強く主体的に学習に取り組む姿が見られた。一方で、自らの作品の良さや工夫した点を言葉にして友達に伝えたり、友達の発想の良いところを真似して自らの作品に生かしたりすることには未だ課題が残っている。

これらを踏まえ、本単元では、すでに備わっている児童の「作りたい」「やってみたい」という意欲的な気持ちを尊重しつつ、「幼稚園・保育園の園児たちを招待する」という目的意識をもたせることで、互いに助言し合ったり、良いところを真似し合ったりするような他者と協働する姿が多く見られるようにしたいと考える。

6 創造的な資質・能力の素地を育成する視点

自らの学習を振り返って学習状況を把握したり、他者と協働的に学んだりする活動を通して、問題の発見や解決に向かって、自分の持ち味を生かして挑戦し、主体的に取り組もうとする態度を身に付けることができるようにする。

7 創造的な資質・能力の素地を育成するための手だて

(1) 振り返り活動の充実

単元の最後だけでなく、単元の途中でも振り返りの活動を取り入れることで、児童自身が自らの学習状況を把握することができる。この活動を取り入れることにより、児童が自分の持ち味を生かして挑戦し、主体的に取り組もうとする態度を身に付けることができるようにする。

(2) 協働的な学び

個やペア、グループ、学級全体と学習形態を工夫することで、自らの持ち味に気付いたり、他者の持ち味に気付いて自らの活動に生かそうとしたりする姿が見られると考える。個の学びと集団での学びを往還することで、児童が自分の持ち味を生かして挑戦し、主体的に取り組もうとする態度を身に付けることができるようにする。

(3) ICT等の活用

秋がどんな季節かを調べる場面や、秋のおもちゃの発想を得る場面では、タブレット端末を活用することで、自らの経験だけでは不十分な箇所を補うことができる。また、秋のおもちゃの作り方を記録する場面や、完成した作品を記録する場面では、タブレット端末で写真や動画を残すことで、活動を振り返るときの材料とすることができる。以上より、ICT等の活用が、児童が自分の持ち味を生かして挑戦し、主体的に取り組もうとする態度を身に付けることに効果的だと考える。

8 指導計画

時	学習過程	○主な学習活動 ★創造的な資質・能力の素地を育成するための手だて	◆評価規準 【観点】(方法)
1 ～ 2	あきはどんな な？ きせつか 【わくわく】	○家庭や幼稚園、保育園での経験から、知っている秋を伝え合う。 ★友達と意見交換をし、自らの考えを深める。 ○食べ物や虫、植物など、まだ知らない秋について調べ、秋の知識を深める。 ★本や図鑑、児童用タブレットパソコンを活用し、まだ知らない秋を調べる。 ○見付けた秋を友達に伝える。 ★友達と意見交換をし、自らの考えを深める。	【知】①(発言・観察) 【思】①(発言・観察) 【主】①(発言・観察)
3 ～ 13	あきのおもちゃを つくってあそぼう 【いきいき】	○秋の自然物を比べたり、試したり、見立てたりしながら、秋の自然物の特徴や性質を見つけ、おもちゃを作る見通しを立てる。(本時) ★友達と意見交換をし、自らの考えを深める。 ★本時の学習を振り返り、学習状況を把握することで、次にやるべき課題を発見する。 ○生活科見学でさらに材料を集めるための計画を立てる。 ○生活科見学で公園へ行き、秋の自然物を直接感じたり、材料に使いそうなものを集めたりする。 ○生活科見学で集めた材料も加えて、秋のおもちゃを作る。 ★タブレット端末を活用し、おもちゃの作り方を調べたり、おもちゃの作り方や完成した作品の記録を残したりする。 ★本時の学習を振り返り、学習状況を把握することで、次にやるべき課題を発見する。 ○作った秋のおもちゃを使って遊ぶ。 ○作ったおもちゃを紹介し、もっと楽しく遊べるようにおもちゃを改良しながら、友達とおもちゃ遊びを楽しむ。 ★友達と意見交換をし、自らの考えを深める。	【知】①②(発言・観察) 【思】①②(発言・観察) 【主】①③(発言・観察)
14 ～ 18	あきのあそびを たのしもう 【ぐんぐん】	○秋のおもちゃランドを開く準備をする。 ○学年で秋のおもちゃランドを開き、年長児役とお店屋さん役を交互に演じ、おもちゃの遊び方や作り方を年長児に伝える方法を考える。 ○年長児を招待するにあたって、修正が必要だった箇所を修正する。 ★友達と意見交換をし、自らの考えを深める。 ★本時の学習を振り返り、学習状況を把握することで、次にやるべき課題を発見する。 ○年長児を秋のおもちゃランドに招待し、一緒に遊ぶ中で、遊び方や作り方を伝え、秋の楽しさを共有する。 ○これまでの活動を振り返り、秋の思い出や、秋の自然と自分との関わりについて伝え合う。 ★単元全体を振り返る。	【知】②(発言・観察) 【思】②(発言・観察) 【主】①②③(発言・観察)

9 本時の指導（全 18 時間中の第 4 時）

（1）目標

秋の自然物に触れることで様々な発見をし、秋のおもちゃを作る見通しをもち、秋を楽しむことができるようにする。

【知識及び技能】

（2）展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆評価規準【観点】（方法） ★創造的な資質・能力の素地を育成するための手だて ※指導上の留意点
導入	○前時まで学習を振り返る。 ・知っている秋や調べた秋を友達と伝え合った。 ・幼稚園や保育園の子を招待して、秋のおもちゃランドを開くことになった。	※前時までに見付けた秋を教室に掲示して、児童が秋のイメージをもちやすくする。
あきとなかよくなるために、わくわくやふしぎをみつけよう。		
展開	○秋の自然物を比べたり、試したり、見立てたりしながら、秋の自然物の特徴や性質を見付ける。 ・いろいろな大きさの松ぼっくりがある。 ・閉じている松ぼっくりと、開いている松ぼっくりがある。 ・いろいろな形のどんぐりがある。 ・どんぐりとひもを組み合わせると…。 ○自分のできタネ（見つけた特徴や性質、面白さ）を友達に伝えたり、友達のいいネを見つたりする。 ・私はまつぼっくりとどんぐりで～してみたよ。 ・〇〇さんがどんぐりと紐で～していた。 ○友達のいいネを試し、自分の考えを深める。	※自席での活動が落ち着いてきたら、教室に設定した材料を組み合わせてもよいことを補足し、活動が活発になるようにする。 ・糸、ストロー、坂、針金、紙コップなど ※活動が思うように進まない児童には、周りの友達の真似を促したり、何に困っているかを聞いたりして活動に参加できるようにする。 ★友達と意見交換をし、自らの考えを深める。 ※グループ、学級全体と活動形態を変えることで、児童がより多くの意見に触れられるようにする。 ◆【知】②（発言・観察）
振り返り	○本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。 ①あきのわくわくやふしぎをみつけることができたか。 ②ともだちのいいネをみつけることができたか。 ③自由記述（次回やってみたいこと、自分が見つけたことでメモしておきたいこと、友達のいいネなど）	★本時の学習を振り返り、学習状況を把握することで、次にやるべき課題を発見する。 ※記述欄は、書ける範囲での記述でよいことを伝える。